

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
M211N204		薬理学 (Pharmacology)					健康科学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態			
必修	1	2	医学部看護学 科	前期	火1	日本語				オムニバス			
担当教員	氏名 上村尚人・甲斐恵・和久田浩一・中村優佑・石崎敏理・寺林健												
	E-mail uemura@(上村) t-ishizaki@(石崎) 内線 5952(臨床薬理)、5722(薬理)												
授業の概要	薬力学・薬物動態学などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態、薬による治療効果、用いる薬の作用（主作用・副作用）機序と副作用を理解し、各薬物の効果的な使用方法（与薬方法）について説明できることを目標とする。												
具体的な到達目標													
DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7
目標1	薬力学・薬物動態学の基本知識について説明できる						○		○		○		
目標2	薬物の作用機序を理解し、適応疾患に用いる科学的根拠を挙げることができる						○		○		○		
目標3	薬物使用にあたり、望ましくない作用・薬物相互作用について説明できる						○		○		○		
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度（計10）							7		2		1		
授業の内容													
1 治療学総論													
2 薬候補が薬として認められるまで：治験の話													
3 薬物動態と投与方法：飲み薬と注射ではどこが違う？													
4 薬物相互作用：薬の飲みあわせ													
5 薬物毒性学：薬の副作用と薬害について													
6 薬物ゲノミクス：薬効の個人差、遺伝子と薬													
7 薬力学：薬の強弱を言葉で表すためには													
8 循環器作用薬 1													
9 循環器作用薬 2 と脂質代謝異常症治療薬													
10 精神・神経に作用する薬													
11 鎮痛に作用する薬・消化器に作用する薬													
12 気管支喘息とステロイド													
13 血液凝固関連薬													
14 課題発表 1（脂質代謝異常症治療薬・利尿薬）													
15 課題発表 2（糖尿病治療薬・化学療法）													
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		○課題レポート提出			工夫その他の	課題テーマに対するレポート グループ学修課題の発表						
	B:意見の表現・交換		○グループ学修課題の発表および質疑応答										
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		生化学・生理学を復習する（22.5h）										
	事後学修		配布資料等を用い、授業で学習した内容を復習する（22.5h）。										
	想定時間合計		45										
教科書	特に指定しない。授業中に配布するプリント（スライド）を使用する。												
参考書	特に指定しない												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題発表		50%		○	○							
	課題レポート		50%	○	○	○							
注意事項	グループ発表には必ず出席すること												
備考	特になし												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	上村尚人（医師）、甲斐恵（医師）、中村優佑（医師）、和久田浩一（薬剤師）												
実務経験を いかした教育内容	医師、薬剤師としての実務経験を活かしたアクティブラーニングを行う												